代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 医療法人財団東京勤労者医療会 1部60円
〒151―0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1―30―7
TEL(3404)7661
E-mail address　yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

代々木病院 4階病棟

進む医療連携と自立支援

回復期リハビリテーション病棟2年間を振り返る

代々木病院の4階は、回復期リハビリテーション病棟と呼ばれるリハビリテーション専門病棟です。2007年3月の開設から2年間が経過しました。当院回復期リハビリテーション病棟2年間の到達と課題などについて、報告書の取りまとめ作業の中心を担った、リハビリテーション室主任の樋口直樹言語聴覚士にお聞きました。

△今後の課題を語る△

チーム医療で回復を支援

―そもそも回復期リハビリテーション病棟とはなんでしょうか？

樋口　回復期リハビリテーション病棟は、リハビリテーションを集中的に行う病棟です。

具体的には、急性期の病院で治療が落ち着いた後、リハビリテーションが必要な疾患、例えば脳卒中や骨折などの疾患の患者様に、リハビリテーションを提供する病棟です。

また、リハビリテーション医、看護師、介護福祉士、セラピスト（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、医療相談員など、他職種でのチーム医療の展開が要求され、多くの患者様が状態を回復し自宅に帰ることができるようチームでケアサポートをします。

地域医療に貢献

―報告書の中で特徴的なものをいくつか教えてください。

樋口　近隣に都立病院や大学病院が多いので急性期病院から転院される患者様が入院のほとんどをしめています。

また、患者様の入院時居住地域は当然、近隣区が多いですが、西南地域全体にも広がっていました。患者様が在宅に復帰された率は2年間では79％、昨年度のデータでは、81％と全国平均69％（全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会2008年調査）と比較して、かなり高い率であることが分かりました。この数値でもって医療の質を測ることはできませんが、西南地域の医療連携の中で役割を十分に果たしていると思います。

リハビリ効果の向上

―そのほかのところではどうでしょうか？

樋口　リハビリテーションの効果は、一般的に日常生活に必要な動作を点数化し、入院時と退院時を比較することで測ります。その効果の数値は、開設当初はあまり高くなかったのですが、今年度はほぼ全国平均に達しました。

それは開設時12名だったセラピストが、現在34名とスタッフ数が充実してきたことと、病棟での改善への取り組みが、効果を発揮してきているのではないかと考えています。

さらなる改善を目指す

―では、課題はどうでしょうか？

樋口　現時点では患者様一人あたり1日のリハビリテーションの提供時間が、全国平均よりもやや低いことがあげられます。今後もセラピストの充実が求められる状況です。リハビリテーションの提供時間とリハビリテーションの効果は、強い関りがあることが、特に脳卒中などの脳血管障害リハビリテーションでは知られています。

セラピストの体制充実によって、リハビリテーションの効果をさらに高めることが可能と考えています。それは患者様が改善した状態で退院されることを意味します。

―セラピストの体制充実だけが対応策なのでしょうか？

樋口　そうではありません。本来回復期リハビリテーション病棟は他職種のかかわる中で病棟生活、それ自体がリハビリテーションとなる病棟です。セラピストの数はすぐに増えませんが、現時点でも工夫できる点はたくさんあると思います。

今年4月より様々な小プロジェクトを立ち上げ、より一層病棟でリハビリテーションが進むよう様々な改善を話し合い実行する場を作りました。なんといってもチーム医療の充実が大切です。

こういったプロジェクトがすぐに効果を発揮するわけではありませんが、こういう小さな積み重ねが、最終的に患者様の状態の改善に寄与することにつながると考えています。

リハビリに励む佐々木美代子さん。リハビリ室で撮ったお気に入りの１枚

入院してよかった

ユーモラスに富んだ代々木病院

佐々木美代子

左脳出血後遺症で当院回復期リハビリテーション病棟に入院中の佐々木美代子さんは、聖路加国際病院から転院してきました。「これからは差額ベッド代の心配がいらない」と安心しています。必死でリハビリに励む佐々木さんから、今の心境を綴った一文が寄せられました。

雨に濡れた銀杏並木が一段と美しく眼にしみます。

15年前に右の脳出血で左半身が麻痺し、そして今回は左の脳出血で右も不自由となりました。代々木病院の手厚いケアのもとでリハビリに励んでいます。

「座れない」「立てない」「字が書けない」と大泣きしました。けれでも、看護師さんは私を抱きしめてくれます。

毎日が新しい出会いがあり、朗らかな気分でいます。そしてこの真面目人間の私に「スマイルNO1」などいろいろな「ニックネーム」を付けてくれたユーモアたっぷりの人もたくさんいます。それらの「ニックネーム」を私の宝にします。

三宅島に帰宅したあかつきには、私の朗らかな声を、野鳥のコーラスに混じって響き渡らせたい。

毎日、当日付けの新聞が読めることがうれしいです。明るい希望が見えますから。

モノクロ

手術台

日本被団協50年史が出版された。本・別刊合わせて770頁という厚さである。読んでみるとまだまだ書き残した部分が多いという思いがひしひしと伝わってくる▼文句のつけようのない被団協正史であるが、団体史なので突出した個人史などは削らなくてはならなかったからであろう。編纂委員会のメンバーをみるとはっと胸を衝かれる。委員長以下多くの人が既に鬼籍に入っている▼この本自体が単なる記録ではなく、途中で仆れたひとを乗り越え、乗り越え完成した運動であり、モニュメントであることがよくわかる。別巻には貴重な歴史的資料や詳しい年表が載っている。初めて原水禁世界大会に参加する若者は勿論、多くの人にとってこの一冊あれば大略と真髄を理解することができる▼いま、地球の危機として「エコ・エコ…」の大合唱であるが被爆者の願い「二度と被爆者をつくるな！」（核廃絶）が達成されたわけではない。オバマが何と言おうと核戦争の危機と、被爆者の地獄は続いているのである。（ま）